

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

南
無
阿
弥



南無阿弥陀仏をとなうれば
観音勢至はもろともに
恒沙塵数(ごうじゃじんじゆ)の菩薩と
かげのごとくに身にそえり

※観音勢至(かんのんせいし)⇒観音菩薩と勢至菩薩の事。

※恒沙塵数(ごうじゃじんじゆ)⇒ガンジス河の砂や塵の数ほども無数という事。

山門再建計画現状報告

総代 中村 皓二

例年に無い寒波が少しづつ緩み、春らしく過ごしやすくなって来ました。

山門再建についての現況報告をさせていただきます。

昨年末に設計業者を決定し全体計画の概略について、当方より説明を致しました。それに基づいての設計図が提出されました。当方と何度かの会議で設計内容の確認を致しました。

現在は基本とする設計図が完成した段階です。春のお彼岸から、お寺の本堂に提示しておりますので皆様に見て頂きたいと思っています。

4月初旬には、市役所に山門の確認申請書を提出し5月中には建設許可を頂く予定です。

今後は、各職種別に工事を発注する為の数量積算をし、各社より見積書を頂き、今後の発注の目安にしたいと思っています。山門の木材は乾燥期間が半年位必要ですので、早めに手配する予定です。

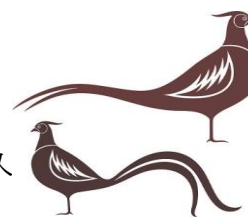
皆様よりの山門ご懇志が順調に進めば、今年末より解体工事にかかり、平成31年の中ごろには完成予定ですが、状況によっては工事着工を遅らせる事も考えられます。

じっくりと全体工程を確認をしながら、無駄なく安全に作業を進めて、皆様のご期待に応えたいと思います。

体験談

心の持ちようを学び直す

門徒会会計 福元 俊久



今から25年も前の6月のことです。会社勤めをしていました。あるプロジェクトの責任者をしており、相手会社とのシカゴでの最終折衝も無事終わり帰国しました。

週末、千葉にある国際禅道場の一泊二日の参禅会に参加しました。

翌日、近くの尼寺に立ち寄りました。白壁のきれいな小さなお寺でした。

門跡の法話を聴きました。

『夏の夕暮れ時、二羽の雉が勢いよく飛んで来ましたが、一羽が白壁に激突して死んでしまいました。

もう一羽は、動かなくなった雉を突き、その上を悲しそうな鳴き声を上げながらグルグルと飛んで

いました。雉は夫婦仲が良いと言われています。

さぞかし嘆き悲しんでいることと思いました。小半時も飛び続けると、思い切ったように一声鳴いて山の方へ飛び去って行きました。

自然界の生き物は、いつまでも執着することなく明日へ向けて飛び立って行ったのです』

このような話でした。

翌、月曜日出社すると、何と、新しく開始するサービスのための会社設立準備室長に発令されて

いました。それまでのプロジェクトの準備が完了し、これから本番と張り切っていた矢先のことです。

全く寝耳に水、理不尽など、怒りと無念さがこみ上げてきました。

週末の法話を思い出しても心は静まりません。仏教塾では、万物は常に変化し(諸行無常)何事も自分の思う通りにはいかない(諸法無我)中であって、心の平静を保つ(涅槃寂静)ことが、仏道修行であると学びましたが、頭と心はついて行きません。

浄慶寺とのご縁をいただいた今、改めてご住職の下、真宗の教えに従った心の持ちようを学び直していきたいと思っています。

◇山門再建の為のご懇志をお願いします

先にご案内の通り、懸案でありました山門再建を進めていく為に皆様方のご協力を賜りたくご懇志をお願いしております。

お寺の顔でもあります山門が通る事も叶わない状態のままでは、門徒としても悲しいものがあります。どうか門徒皆様方の力添えを、よろしく願い申し上げます。今年の一月から募集させて頂いておりますが、まだまだ建設資金の見込みが立たない状況であります。どうか、ご賛同を賜りましてよろしくご協力を、お願い致します。(世話人会一同)

◇ご命日の集いへのお誘い

毎月28日13時30分から本堂にて開催しております。

親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒が集い正信偈を、あげております。

ご都合の付く方は、ぜひ気軽に参加してみてください。

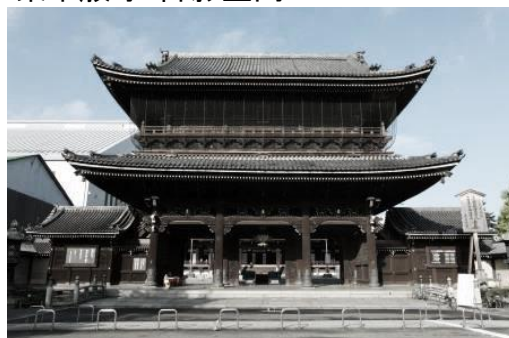


真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第四回》

浄土真宗の宗派について

東本願寺・御影堂門



東本願寺と西本願寺

もともと東本願寺と西本願寺は、一つの「本願寺」でした。しかし、江戸時代初めに東西に分立しました。

その発端は、戦国時代末期に起こった「石山合戦」(1570～1580年)にあると言われています。これは、天下統一を目指していた織田信長から、当時の本願寺の本拠地、大阪・本願寺(現在の大阪城あたり)の明け渡しを要求されたことに始まります。全国の門徒の力を中心に、反信長勢力も得て、十年にも及んだ合戦でした。合戦末期、宗主・顕如上人は紀州(和歌山)に退去しました。一方、顕如上人の長男・教如上人は、宗祖・親鸞聖人の御座所を守ろうと多くの門徒たちと共に籠城を続けましたが、次第に敗色が濃くなり、最後には本願寺を明け渡し、流浪の身となりました。その二年後、信長が本能寺で死去。そして、1591年、本願寺は豊臣秀吉から京都堀川の土地の寄進を受けます。顕如上人亡き後、教如上人が本願寺第十二代を継承しました。

しかし、一年も経たないうちに、秀吉から弟・准如上人に宗主の座を譲るように命じられ、本願寺は准如上人が継承したのです。これが、現在の『西本願寺』です。

そして、江戸幕府が開かれる直前の1602年、隠居中であった教如上人は、かねてより親交の深かった徳川家康から京都東六条の土地の寄進を受け、流浪中も教如上人を支え続けた門徒の人たちと共に『東本願寺』を創立しました。

このようにして本願寺は東西に分立しました。

以後、荘厳(しょうごん)や声明(しょうみょう)などに独自の特徴をもつこととなりましたが、親鸞聖人が興された本願念仏の教えは両本願寺で共に大切に受け継がれてきました。

東本願寺を本山とするのが、「真宗大谷派」で西本願寺を本山とするのが「浄土真宗本願寺派」です。

浄慶寺は、東本願寺(真宗本廟)を本山とする真宗大谷派に属しています。

浄土真宗の十派

前述のように、「本願寺」は東西に分立しましたが、その他にも親鸞聖人のお弟子たちが開いた宗派があります。今では京都に大谷派(東本願寺)、本願寺派(西本願寺)、佛光寺派(佛光寺)、興正派(興正寺)の本山があり、三重県に高田派(専修寺)、滋賀県に木辺派(錦織寺)、福井県に出雲路派(豪撰寺)、誠照寺派(誠照寺)、三門徒派(専照寺)、山元派(證誠寺)の本山があります。これらを合わせて、親鸞聖人を祖とする「真宗十派」といいます。

出典: 東本願寺出版「浄土真宗 仏教・仏事のハテナ？」

◇法事・葬儀等の仏事の連絡についてのお願い◇

法事・葬儀等の仏事の連絡は、住職の携帯電話へお願いします。

☆住職携帯電話 090-2318-2368(24時間受けます)



行事予定

- 永代経法要 5月19日(土)・20日(日)
両日とも13時30分から
- 盂蘭盆会法要 8月13日(月)～15日(水)
3日間とも10時から
- 本堂開放 8月11日(土)～15日(水)
期間中、10時から17時まで

文芸欄

煩惱の海で溺れてなるものか
※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

積年の悔い受けとめる尾氈骨
疑問符を投げて水輪を深くする
躓いたきのうの石に身構える

川柳

山口由利子

◇お寺の本堂での葬儀はいかがでしょうか

お寺の本堂での葬儀を希望する場合は、次の①～②の手順です。

※通夜は自宅か葬儀社での斎行となります。

①葬儀社に連絡して下さい。

下記の何れかの葬儀社を選択して、『浄慶寺の門徒です。本堂葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

- ◇みんせい葬祭 福岡市博多区大博町(担当者:竹内)
092-271-7422(24時間受付) 又は、090-1342-0006(24時間受付)
- ◇お葬式のあおやぎ 福岡市早良区飯倉(担当者:龍相<りゅうそう>)
092-865-4400(24時間受付)

②お寺(住職)に、ご一報をお願いします。(住職携帯電話:090-2318-3268)

◇年忌法要のお知らせについて

年忌の案内は、個別にご案内はしておりません。本堂に掲示しております年回忌表の閲覧をお願いします

◇お墓についてお困りでは、ありませんか

修理が必要なお墓でお困りの方、また、その他墓地のお困り事を、どんな事でも、ご相談下さい。
お墓のお名前を記入の上、葉書に相談内容を記入して、浄慶寺まで、お送り下さい。



編集後記

山門の再建が滞りなく進む事を祈念しつつ、じょうけいの第四号の発行です。ご懇志の、ご協力をお願いします。また、寺報への投稿もよろしくお祈りします。

坊守のTweet

「じょうけい」に初の投稿となります。坊守です。よろしくお祈りします。この度は皆様には出費多端にも関わらず、山門等修理懇志金へご協力、誠に有難うございます。山門は何のためにあるのでしょうか。山門は宗教施設の入り口であり、お寺の入り口であります。「山門から入る」ことで、宗教施設へ参詣に来たことを意識していただきたいと思えます。では宗教施設とは何か。宗教とは「再び見直す」という意味を持ちます。私たちは日常生活の中で自分自身を正しく見ることは、思った以上に難しいのであります。そこで、宗教施設であるお寺へ参詣することや、聞法することで、「お経や法話を自分自身に引き当てて考える」、また「人と出会う、仲間と出会う」そのような機縁が自分自身の在りようを再び見直させてくれるのです。このように考えますと、「山門から入る」こともまた「お経」と同じように私たちの心の在りようを照らす鏡の前に立つことではないかと感じています。



じょうけい 第4号

《発行》

真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
《編集》
浄慶寺寺報編集担当 塩川大一